

# 教育研究業績書

2025年10月20日

所属：心理学科

資格：講師

氏名：尾崎 拓

研究分野	研究内容のキーワード
消費者心理学	社会規範、研究の透明性
学位	最終学歴
博士（心理学）	同志社大学大学院 心理学研究科 博士（後期）課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）修了	2024年11月	熊本大学教授システム学研究センターが運営する教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）に参加し、修了した。
2. ICTを活用した教育実践	2021年4月～現在	Learning Management Systemを利用した双方向型の学修を確立した。オンデマンド型の講義を実践した。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		
1. 入学前教育・初年次教育		オンラインおよびオフラインでの入学前教育を担当した。初年次教育として学部横断型のゼミナール科目を担当した。
2. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）に関わる業務		プログラム申請、プログラムに関連する全学共通の統計教育科目の設計に携わった。
3. 高校生向け模擬講義等の実施		高等学校での模擬講座や、オンラインでの進学イベントにおける講義動画の作成を実施した。
4. 学生担任業務		1年次から4年次までの学部学生について、1学年10名程度を担任として学生支援を行った。業務内容は科目履修等の学業面での支援に加え、学生生活の困りごとの解決や就職活動支援が含まれている。
5. 大学による授業評価		授業アンケート等の結果を踏まえ、教育活動の優れた実績について全学的な表彰を受けた（関西福祉科学大学教育活動（教育実践領域）優秀教員表彰（2023年度・2024年度）。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
<b>2 学位論文</b>				
1. 防災行動を促進する ために記述的規範を 用いることの有効 性・危険性・境界条件	単	2021年3月	同志社大学	博士学位論文；防災行動に及ぼす社会規範の影響について総合的に検討した。災害のリスクの大きさと防災行動の常識的な関係性を見直し、むしろ社会規範が防災行動の説明に際して有用であることを示した。一方で、社会規範そのものは防災行動を抑制する危険性もはらむため、どのような状況下で社会規範が有用なのかという境界条件を明らかにし、社会規範ナッジを制御可能にすることを目指した。
<b>3 学術論文</b>				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
1. 心理科学の卒業論文に事前登録を導入したことについての覚え書き	単	2024年	関西福祉科学大学 紀要	
2. 研究の再現性を高めるための事前登録の実際（査読付）	共	2023年	教育心理学年報	村井潤一郎、工藤与志文、岡田謙介、南風原朝和、樺原潤、尾崎拓、竹橋洋毅；心理学の再現性問題を受けて、その解決策として事前登録が提案されている。本稿では、実際に心理学の研究で事前登録を実施した経験を報告した。
3. A comparison of perceived effectiveness of preventive behaviors against COVID-19 between the public and medical experts: Not so different in means, but in distributions (査読付)	共	2022年	Journal of Health Psychology	中谷内一也、尾崎拓、柴田侑秀、横井良典；新型コロナウイルス感染症流行時に、感染症予防のための行動（手洗いやワクチンなど）の有効性について調査した。対象者は一般市民と医師であり、有効性の認知の平均的な程度は専門家であるかどうかによって異ならなかつた。一方でその分散には違いがみられ、専門家の意見のほうが収束性をもつてることがわかつた。
4. 記述的規範の落とし穴—防災行動を促進するためのナッジが逆効果になる場合—（査読付）	共	2021年	リスク学研究	尾崎拓、中谷内一也；地震防災行動を促進するために社会規範を応用する危険性についての追試研究を実施した。多様な防災行動を設定した場合も、社会規範は防災行動を促進するだけでなく、かえつて抑制しうることが改めて示された。
5. 新型コロナウイルス拡大期における手洗い行動の規定因（査読付）	共	2021年	心理学研究	中谷内一也、尾崎拓、柴田侑秀、横井良典；新型コロナウイルス感染症流行時に、一般市民の手洗い行動を規定する心理学的な要因を探索的に検討した。手洗いが感染リスクを低下させるという認知に加えて、手洗いを社会的な規範と認識していることもまた規定因であることが見出された。
6. Why Do Japanese People Use Masks Against COVID-19, Even Though Masks Are Unlikely to Offer Protection From Infection? (査読付)	共	2020年	Frontiers in Psychology	Nakayachi, K., Ozaki, T., Shibata, Y., Yokoi, R.；新型コロナウイルス感染症に対して、個人の感染を予防するうえではマスク着用がそれほど有効でないと認識されていることを調査で示した。一方で、その非有効性の認識にも関わらず、社会規範に従う動機のためにマスク着用が促されていることが明らかになった。
7. When Descriptive Norms Backfire: Attitudes Induce Undesirable Consequences during Disaster Preparation (査読付)	共	2020年	Analyses of Social Issues and Public Policy	Ozaki, T., Nakayachi, K.；社会規範が望ましい社会的行動を促進することはよく知られているが、本研究ではその負の側面に着目した。自然災害への対処行動を題材に、社会規範は防災行動をかえつて抑制してしまうことが実験的に示された。また、災害への態度がその調整変数であることが見出された。
8. 災害準備に及ぼす場面想定の効果検証—被災者を思い浮かべることが準備行動を促すか？—（査読付）	共	2017年	日本リスク研究学会誌	中谷内一也、尾崎拓；個人防災行動が、個人の被災リスクを低減させるためだけに行われているわけではないという問題意識から、防災行動が他者や血縁者のためであるという認識が防災行動を促進するかどうかを実験的に検討した。
9. 記述的規範と他者の相互作用が地震防災行動に及ぼす影響（査読付）	共	2015年	社会心理学研究	尾崎拓、中谷内一也；地震に対するリスク認知を実験的に適切に高めても、実際の防災行動に及ぼす影響がみられなかつた。一方で、本来個人のリスク減衰に影響しないはずの社会規範の影響によって、個人防災行動が促進される結果が得られた。
10. 東日本大震災のリスクに深く関連した組織への信頼（査読	共	2014年	心理学研究	中谷内一也、工藤大介、尾崎拓；東日本大震災に関わったリスク管理者（東京電力や原子力保安院など）への信頼を対象とする、二波のパネル調査を実施した。組織への信頼が、管理するリスクについ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
付)				ての良好な認識につながることが示された。また、信頼を構成する第三の要素である主要価値類似性の影響が、低信頼組織においてより顕著であることも見出された。
11. A method to improve trust in disaster risk managers: Voluntary action to share a common fate (査読付)	共	2014年	International Journal of Disaster Risk Reduction	Nakayachi, K., Ozaki, T.; リスク管理者に対する信頼を規定する心理学的な要因を探索する調査研究を実施した。リスク管理者にはリスクを制御する実務的な能力が求められる。一方で、管理者があくまで外部の人間としてリスクに関わっている場合、管理者についての信頼は十分に高まらなかった。本研究は、たとえば管理者が想定被災域内で運命を共にする感覚が信頼につながる可能性を示した。
12. 鉄道利用による安全ニーズの位置づけ (査読付)	共	2012年	IATSS Review	犬塚史章, 尾崎拓, 中谷内一也; JR東日本との共同研究を実施した。クレーム情報をもとに鉄道の安全ニーズ、安心ニーズについての質問票を作成し、安全ニーズが利便性や運賃と比較してどのように位置づけられるかを検証した。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1. 社会規範に対する感 受性の測定	単	2024年	日本社会心理学第65回大会	
2. 学部卒業生の学修修 得実感の二次元性: 卒業時アンケートと GPAの関連	共	2022年	大学教育改革 フォーラム in 東 海2022	尾崎拓, 久保田祐歌; IR部門で収集した教学データについての分析結果を報告した。卒業アンケートから得られた学修修得実感には、知識面と態度面の二次元性が確認された。また、GPAは必ずしも知識の修得実感とのみ相關するわけではないことも示された。
3. 事前登録体験記一論 文では何をどのように報告したか—	単	2022年	日本教育心理学会 第64回総会	尾崎拓; 研究の再現性と透明性を高めるための手段として、研究の事前登録が行われるようになってきている。本発表では、自身の実際の事前登録について報告した。
4. 「みんな」とは何割 か: 項目反応理論を 用いた記述的規範の 閾値の推定	単	2021年	日本社会心理学会 第62回大会	尾崎拓; 社会規範の影響の強さが生起する閾値を推定するための心理課題を開発した。社会的な情報（たとえば65%が賛成している）を提示した場合に、どの程度の参加者が多数派に同調するかどうかを測定し、多数派が規範としての影響力を及ぼし始める閾値を推計した。
5. The Unintended Effect of Descriptive Norms on Various Kinds of Disaster Preparation	共	2021年	The 11th International Conference of the International Society for the INTEGRATED DISASTER RISK MANAGEMENT	Ozaki, T., Nakayachi, K.; 自然災害への対処行動に社会規範が及ぼす影響についての日米での実験研究を報告した。社会規範によって防災行動が促進される正の効果が確かめられた一方で、規範の提示がかえって防災行動を抑制する危険性が示された。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. ナッジのオーダーメ イド化：記述的規範 に対する感受性の個 人差を考慮した行動 変容	単	2022年	日本学術振興会 科 学研究費助成事業 若手研究	
2. 何%からが「おおぜ い」か?: 記述的規 範の閾値を特定する	単	2021年	日本学術振興会 科 学研究費助成事業 研究活動スタート 支援	
3. 地震防災促進要因と しての記述的規範の	単	2015年	日本学術振興会 科 学研究費助成事業	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
効果と認知プロセス ：解釈レベル理論に基く検討			特別研究員奨励費	
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2019年	若手研究者奨励賞、「みんな」とは何割か：記述的規範の閾値・個人差・個人内過程、日本社会心理学会			
2. 2014年	2014年度学術大会優秀発表賞、自転車二重ロック促進に対するTranstheoretical model の応用 (1)、日本心理学会			